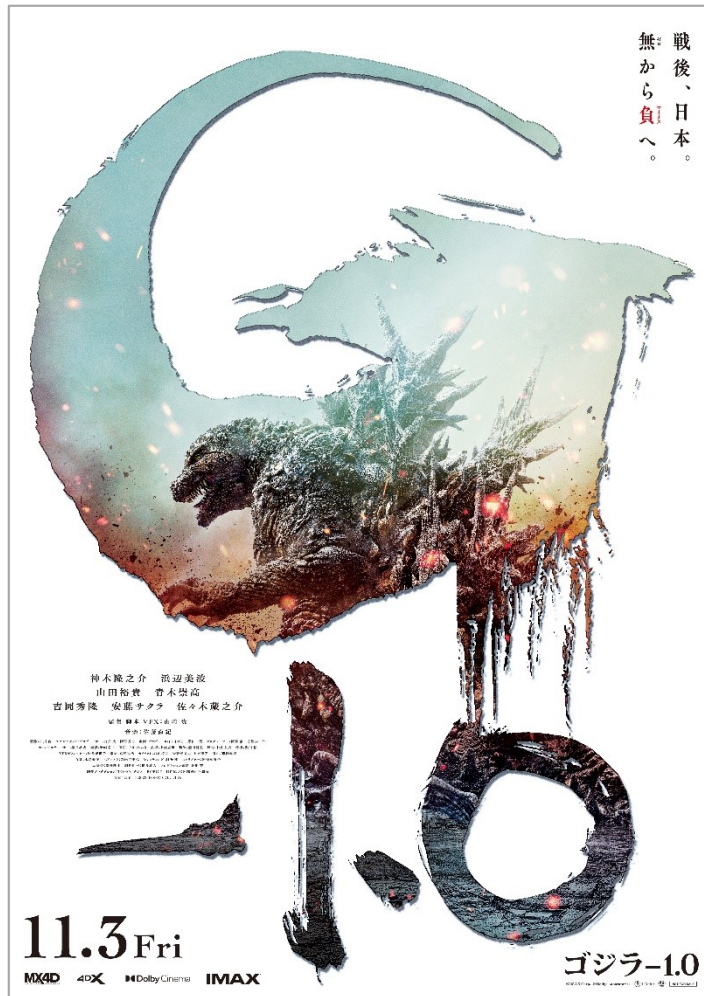


2024年2月期 第2四半期 (2023年3月1日~2023年8月31日)

決算説明資料



2023年10月11日(水)



Entertainment for YOU
— 世界中のお客様に 感動を —

2024年2月期 第2四半期 営業概況

	2023年2月期 (2022年3月～8月)	2024年2月期 (2023年3月～8月)	前年同期比	増減率
営業収入	120,353百万円	139,642百万円	19,288百万円	16.0% ↗
営業利益	25,984百万円	30,752百万円	4,768百万円	18.4% ↗
経常利益	30,213百万円	32,881百万円	2,667百万円	8.8% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21,558百万円	21,751百万円	193百万円	0.9% ↗

2024年2月期 第2四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

2022年4月に創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と今後3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」から構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を策定しました。2年目を迎える本年においても、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでまいります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

【第2四半期決算の概況】

映画営業事業において、第1四半期から続映の「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」に加えて、「君たちはどう生きるか」「キングダム 運命の炎」「怪物」等のヒットや、「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」（東和ピクチャーズ配給）等の洋画作品の大ヒットもあり、増収増益。

映画興行事業において、前年の「トップガン マーヴェリック」「ONE PIECE FILM RED」等の大型ヒット作品に匹敵する作品は無かったものの、上記の当社配給作品を中心としたヒットが貢献し増収増益を確保。

映像事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信等の多面的展開により好調に推移した結果、増収増益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、日本初上演として話題となった帝国劇場「ムーラン・ルージュ！ザ・ミュージカル」や、シアタークリエ「SHOW BOY」等が堅調に推移し、公演が一部中止となった演目があったが、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において「東宝日比谷プロムナードビル」をはじめとする新規物件が順調に稼働したが、道路事業において、前期に多くあった採算性の高い工事が減少したこと等により、増収ながらも減益。

上記の結果、当第2四半期の営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益で、増収増益。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2023年2月期 (2022年3月～8月)	2024年2月期 (2023年3月～8月)	増減率	2023年2月期 (2022年3月～8月)	2024年2月期 (2023年3月～8月)	増減率
①映画事業	78,199	94,872	21.3% ↗	17,245	22,831	32.4% ↗
映画営業	19,968	24,474	22.6% ↗	7,758	9,610	23.9% ↗
映画興行	38,378	44,516	16.0% ↗	5,331	8,114	52.2% ↗
映像事業	19,853	25,880	30.4% ↗	4,155	5,106	22.9% ↗
②演劇事業	8,348	9,707	16.3% ↗	1,101	1,264	14.8% ↗
③不動産事業	33,234	34,463	3.7% ↗	9,521	9,250	-2.9% ↘
不動産賃貸	13,899	14,530	4.5% ↗	6,072	6,031	-0.7% ↘
道路事業	14,606	14,690	0.6% ↗	3,025	2,641	-12.7% ↘
不動産保守・管理	4,729	5,242	10.9% ↗	424	576	36.0% ↗
④その他事業	570	599	5.1% ↗	102	114	11.3% ↗

(単位: 百万円)

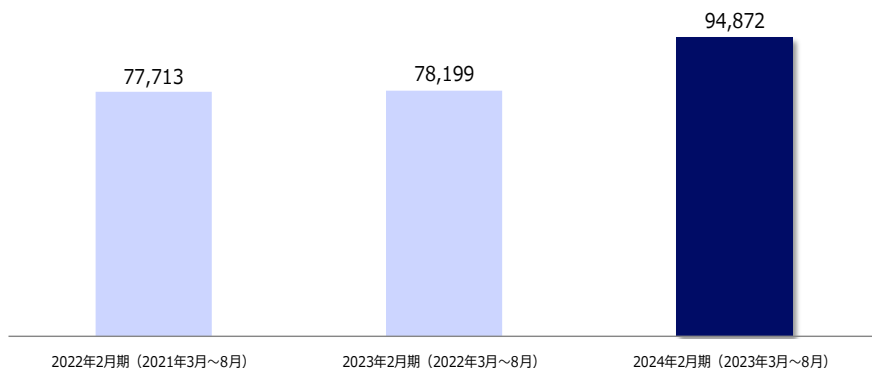
セグメント別業績（四半期別）

	営業収入		営業利益	
	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)	第1四半期 (2023年3月～5月)	第2四半期 (2023年6月～8月)
①映画事業	50,925	43,947	13,155	9,676
映画営業	13,859	10,615	5,798	3,812
映画興行	23,207	21,309	4,668	3,446
映像事業	13,859	12,021	2,688	2,418
②演劇事業	5,385	4,322	1,212	52
③不動産事業	17,535	16,928	5,160	4,090
不動産賃貸	7,269	7,261	3,302	2,729
道路事業	7,768	6,922	1,632	1,009
不動産保守・管理	2,498	2,744	225	351
④その他事業	305	294	51	63
合計	74,153	65,489	18,324	12,428

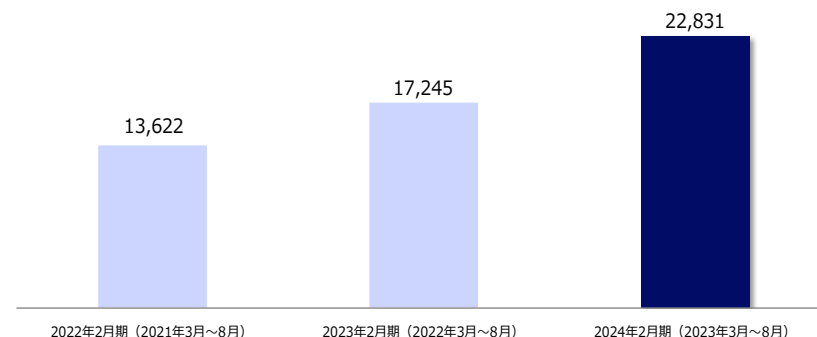
(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、宮崎駿監督の10年ぶりの新作「君たちはどう生きるか」が興行収入80億円を超える大ヒットとなったことをはじめ、「キングダム 運命の炎」(同54.2億円)、「しん次元！クレヨンしんちゃんTHE MOVIE 超能力大決戦 ～とべとべ手巻き寿司～」(同23.5億円)、「怪物」(同21.2億円)等が高い水準で推移。東和ピクチャーズ配給作品においても、「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」(同53.7億円)、「トランスフォーマー/ビースト覚醒」(同12.8億円)等のヒットがあり、映画営業事業全体として増収増益。(興行収入は2023年9月末時点)
- 映画興行事業では、前年の「トップガン マーヴェリック」「ジュラシック・ワールド/新たなる支配者」「ONE PIECE FILM RED」等に匹敵するヒット作はないものの、上記の東宝配給作品を中心とした作品が好調に推移したことに加え、6月1日からの鑑賞料金改定の好影響もあり、増収増益を確保。
- 映像事業では、アニメ制作事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入が好調に推移。出版・商品事業では、劇場用パンフレットにおいて「君たちはどう生きるか」等の販売が好調。映像事業全体として、増収増益。

当第2四半期の主要稼働作品状況

東宝(株)配給作品（興行収入10億以上）

作品名	公開日	興行収入
君たちはどう生きるか	7月14日	83.1
キングダム 運命の炎	7月28日	54.2
しん次元！クレヨンしんちゃんTHE MOVIE 超能力大決戦 ～とべとべ手巻き寿司～	8月4日	23.5
怪物	6月2日	21.2

東宝東和(株)等配給作品（興行収入10億以上）

作品名	公開日	興行収入
ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE	7月21日	53.7
トランスフォーマー/ビースト覚醒	8月4日	12.8

（興行収入は2023年9月末日時点 単位：億円）

当第2四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,404	6,547	148.7%
4月	7,382	11,388	154.3%
5月	8,719	8,767	100.6%
第1四半期	20,506	26,703	130.2%
6月	2,616	3,182	121.6%
7月	4,161	6,867	165.0%
8月	4,150	9,148	220.4%
第2四半期	10,928	19,197	175.7%
上期計	31,434	45,901	146.0%

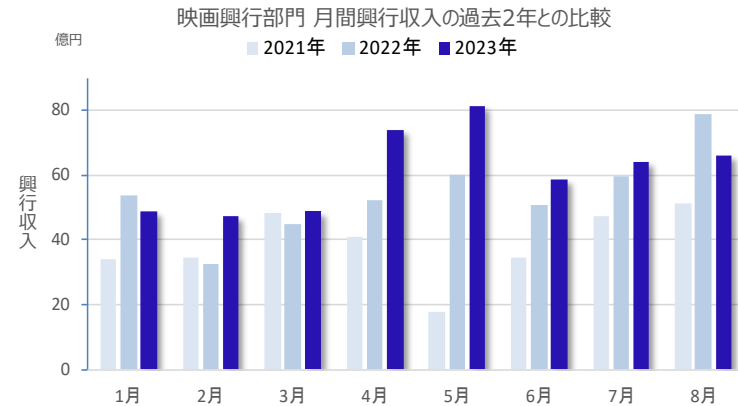
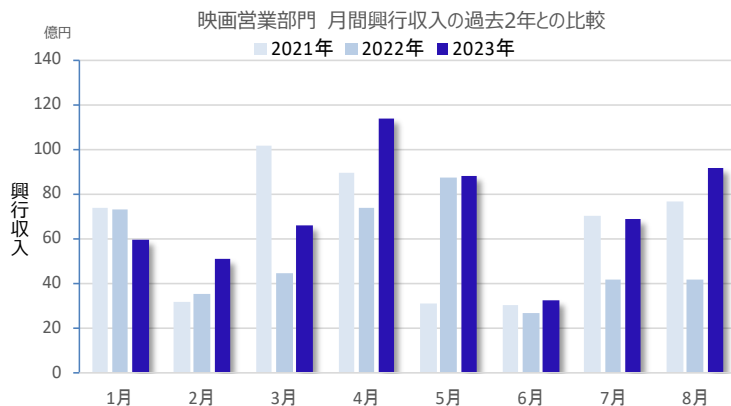
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

映画興行事業 興行収入推移

(単位：百万円)

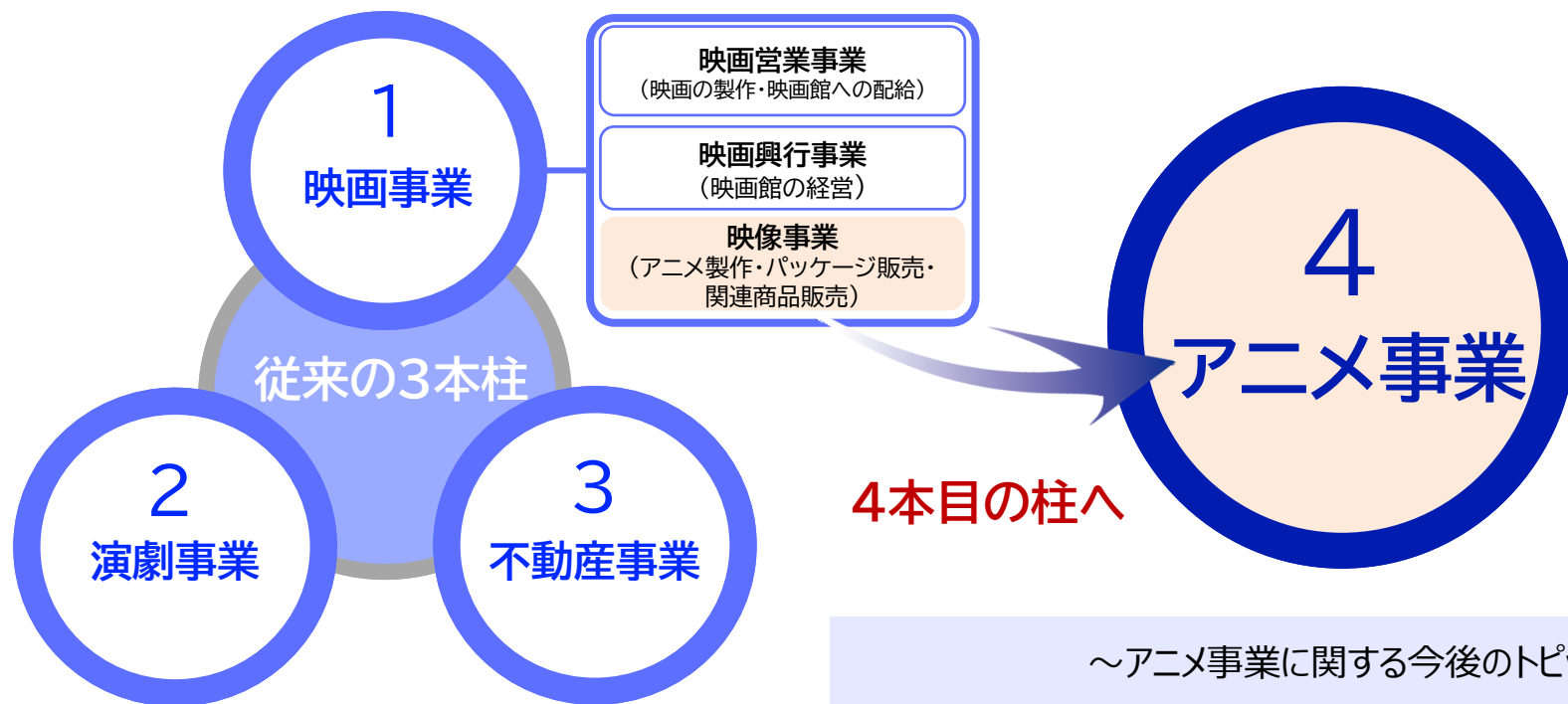
	2023年2月期	2024年2月期	前年同期比
3月	4,494	4,896	108.9%
4月	5,203	7,374	141.7%
5月	6,004	8,133	135.5%
第1四半期	15,702	20,404	129.9%
6月	5,092	5,864	115.2%
7月	5,949	6,395	107.5%
8月	7,871	6,624	84.2%
第2四半期	18,914	18,884	99.8%
上期計	34,616	39,289	113.5%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）



当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第4の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



- TVアニメ「薬屋のひとりごと」10月21日放送開始
- ゲーム「呪術廻戦 ファントムパレード」を本年中にリリース予定
- 12月22日「劇場版 SPY×FAMILY CODE: White」公開
- 2024年2月16日「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」公開
- TVアニメ「ぶっちぎり?!」「怪獣8号」2024年に放送決定

2024年2月期 第2四半期アニメ事業 ソース別営業収入及び国内外構成比

◆本表の対象範囲は、TOHO animationレーベル及びこれに準ずる作品です。

	2023年2月期 3月～8月	2024年2月期 3月～8月	前年同期比	増減率	主な増減要因
配信	3,073	5,392	2,319	75.5% ↗	・ (+) 「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」が伸長
キャラクターライセンス	2,945	3,432	487	16.5% ↗	・ (+) 「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」が堅調
商品物販	938	1,069	131	14.0% ↗	・ (+) 「僕のヒーローアカデミア」のキャラクターグッズが好調
パッケージ	593	875	282	47.6% ↗	・ (+) 「お兄ちゃんはおしまい!」「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」がヒット
劇場公開	1,989	2,062	73	3.7% ↗	・ (+) 「BLUE GIANT」「GRIDMAN UNIVERSE」が好調
演劇公演	—	1,054	1,054	— ↗	・ (+) 「SPY×FAMILY」が帝国劇場にて初のミュージカル化 ・ (+) 関連商品等も好調
配分金 その他	738	866	128	17.3% ↗	・ (+) 「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」の配分金が貢献
合計	10,278	14,753	4,475	43.5% ↗	
	2023年2月期 3月～8月	2024年2月期 3月～8月	前年同期比	増減率	構成比
国内	7,563	9,710	2,147	28.4% ↗	65.8%
海外	2,714	5,042	2,328	85.8% ↗	34.2%

※当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります。

(単位：百万円)

TVアニメ「葬送のフリーレン」



©山田鐘人・アベツカサ/小学館/「葬送のフリーレン」製作委員会

現在毎週金曜よる11時日本テレビ系全国30局ネット「FRIDAY ANIME NIGHT(フライン)」で放送中

原作は「週刊少年サンデー」(小学館)で連載中、山田鐘人(作)とアベツカサ(画)による漫画「葬送のフリーレン」。

勇者とそのパーティーによって魔王が倒された“その後”の世界を舞台に、勇者と共に魔王を打倒した千年以上生きる魔法使い・フリーレンと、彼女が新たに会おう人々の旅路が描かれていく。

コミックスは既刊11巻ですでに累計発行部数1,000万部を突破。2021年には「マンガ大賞2021」大賞を受賞し、漫画ファンの間で旋風を起こしている本作。

TVアニメとしては日本テレビ史上初となる初回放送を【金曜ロードショー】にて実施し、X(旧Twitter)のトレンドワードランキングで「フリーレン」が世界第1位になるなど、幅広い世代から大きな注目を集めた。

TVアニメ「SPY×FAMILY」Season2



©遠藤達哉/集英社・SPY×FAMILY製作委員会

現在毎週土曜23:00～テレビ東京系列ほかにて放送中

集英社「少年ジャンプ+」で連載中の、遠藤達哉による漫画原作「SPY×FAMILY」。

2019年3月より連載がスタートし、現在では総PV数6億超え、数々のマンガ賞にも輝き最新コミックス 12巻までのシリーズ累計発行部数が3,100万部を突破。

凄腕スパイの父、超能力者の娘、殺し屋の母、予知能力を持つ犬、彼ら「仮初めの家族」が織り成すスパイハートフルコメディ。

2022年にTVアニメSeason 1が放送されると原作コミックとの相乗効果で一大ブームに。アニメファンだけでなく幅広い層に高い支持を受け、2022年を代表するアニメに。そして10月、ファン待望のSeason 2が放送。オープニング主題歌をAdo、エンディング主題歌をVaundyが務めることでも話題を呼んでいる。

「劇場版 SPY×FAMILY CODE: White」



©2023「劇場版 SPY×FAMILY」製作委員会 ©遠藤達哉/集英社

2023年12月22日(金)全国ロードショー

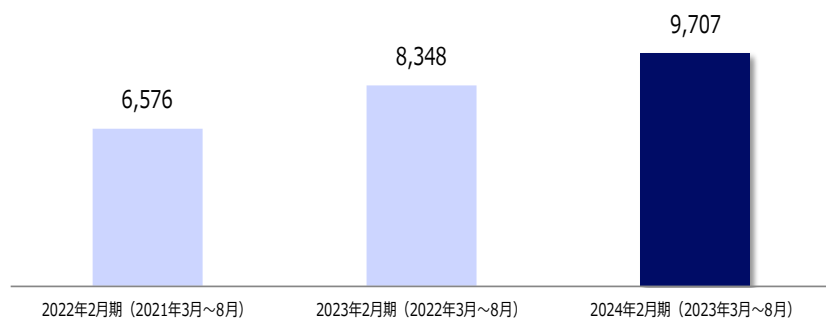
10月から放送がスタートするTVアニメSeason 2にも大きな期待が高まる「SPY×FAMILY」が初の映画化。原作者：遠藤達哉が監修・キャラクター原案を務める、完全新作のアニメオリジナルストーリー。

映画公開に向け、世界的に高い人気を誇る格闘ゲーム最新作「ストリートファイター6」とのコラボレーションや、シリーズ7作目でトム・クルーズ主演の大ヒット映画「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」とのコラボレーションのほか、各種タイアップが進行中。

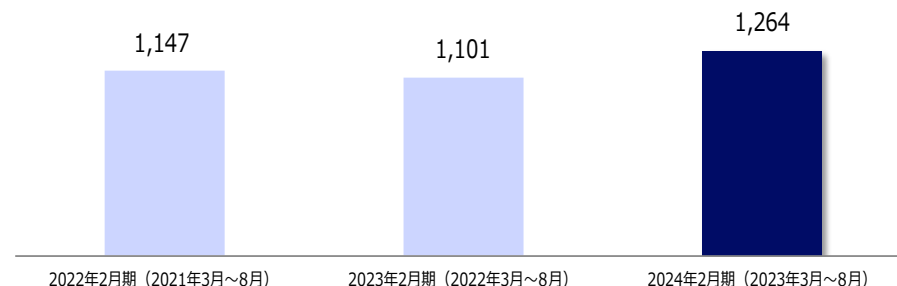
さらに映画のゲスト声優として、俳優の中村倫也、賀来賢人が出演することも大きな話題を呼んでいる。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



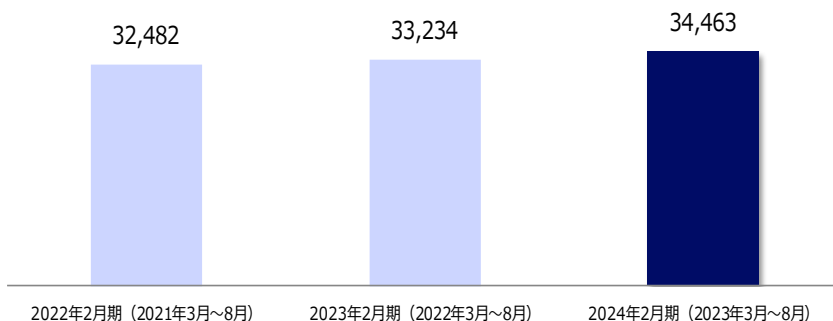
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

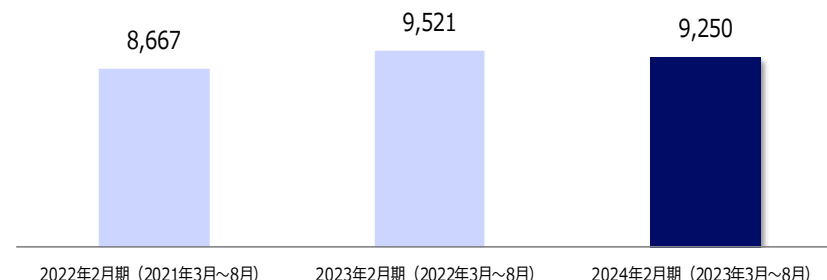
- 帝国劇場では、「ムーラン・ルージュ! ザ・ミュージカル」(6月~8月公演)が盛況。シアタークリエでは、「ダーウィン・ヤング 悪の起源」(6月公演)、「SHOW BOY」(7月公演)、「家族モドキ」(7月~8月)等を上演。
- 東宝芸能(株)では、長澤まさみ、浜辺美波、上白石萌音、上白石萌歌ら所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、一部公演中止となった演目や新作公演に伴うコスト増が発生したものの、前年より新型コロナ等による休演数が減少し堅調に公演を実施することができたため増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が堅調に稼働。また、本年2月竣工の東宝日比谷プロムナードビルをはじめとした新規物件が貢献し増収となるも、減価償却費の増加や修繕費等の計上があり、わずかに減益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたが、前期に多くあった採算性の高い工事の減少があり、増収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、新規受注確保や経費削減に努めたことに加え、延期されていた工事の実施もあり、増収増益。

業績予想修正

第2四半期累計期間では、主力の映画事業において第1四半期から続映の「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」に加え、「君たちはどう生きるか」「キングダム 運命の炎」「ミッション：インポッシブル/デッドレコニング PART ONE」等の豊富なヒットが業績を牽引しました。また、TOHO animation作品の各種事業展開が好調だったほか、演劇事業、不動産事業も堅調に推移した状況を踏まえ、連結業績予想を見直しました。

■ 2024年2月期連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年7月13日発表)	百万円 260,000	百万円 45,000	百万円 48,000	百万円 31,000	円 銭 177.57
今回修正予想 (B)	270,000	50,000	54,000	36,000	206.21
増減額 (B-A)	10,000	5,000	6,000	5,000	—
前回発表増減率	3.8%	11.1%	12.5%	16.1%	—
(ご参考) 2023年2月期実績	244,295	44,880	47,815	33,430	190.37

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 コーポレート本部 総務部 広報・IR室
Mail : pr_ir@toho.co.jp